「ディスカバー農山漁村の宝」フォローアップ調査

GOTTSO阿波
【徳島県阿波市】

小柳　繁
【新潟県新発田市】

福良漁業協同組合
【兵庫県南あわじ市】

令和８年３月

農林水産省農村振興局農村計画課

趣　旨

「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」とは、「強い農林水産業」、「美しく活力ある農山漁村」の実現のため、農山漁村の有するポテンシャルを引き出すことにより地域の活性化や所得向上に取り組んでいる優良事例を選定し、全国に発信することを通じて他地域への普遍化を図る取組です。

　このフォローアップ調査は「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」に選定された効果を選定から５年後に調査を行い、その結果を発信するものです。

　今回は第７回（令和２年度）選定地区の活動状況を掲載します。調査により、選定後に新たな活動の拡大などが見られた16地区については個別に取組事例を作成しましたので、地域活性化等に向けた取組の参考としていただければ幸いです。

調査内容

〇調査対象

・選定後５年経過した地区（令和７年度においては、第７回（令和２年度）選定地区（全33地区の一覧はＰ２に整理））が対象。

〇調査方法

・各地方農政局等（北海道については農村振興局）が、①活動状況、②現在の主な活動内容※、③具体的な活動内容、④課題、⑤選定以降の新たな取組展開、を第６回選定地区から聞き取り整理。

※「農業」、「林業」、「水産業」、「６次産業化」、「輸出」、「スマート農林水産業」、「都市農業」、「企業との連携」、「農泊」、「農村文化体験」、「ジビエ」、「棚田保全」、「地産地消」、「伝統の継承」「荒廃農地対策」、「鳥獣被害防止」、「雇用」、「移住・定住」、「復興」、「環境保全（農林水産業・食品産業）」、「農村環境・景観保全」、「教育機関との連携」、「農福連携」、「食育・教育」、「高齢者の活躍」、「女性の活躍」、「学生・若者の活躍」、「地域のスマート化」、「多様な分野（スポーツ、芸術、健康医療、再生可能エネルギー等）との連携」、「関係人口の創出」、「食料安全保障強化」の中から３つまで複数選択可。

・このうち、選定後に新たな活動の拡大などが見られた地区について、ヒアリング等を実施し個別事例として整理。

・全33地区のうち、１地区は第8回（令和３年度）選定の地区を含む。

目　次

- 第７回（令和２年度）選定地区の主な活動状況・・・・・・・・・・・・１Ｐ
- 第７回（令和２年度）選定地区一覧（日本地図）・・・・・・・・・・・２Ｐ
- 新たな活動が見られた地区の紹介・・・・・・・・・・・・・・・・・３～19P

第7回（令和2年度）選定地区の主な活動状況

活動状況

○　選定から5年後も全33地区のうち、29地区はおおむね活動を継続し、2地区は別組織へ継承し活動を行い、2地区は取組を終了していた。また、17区において、特に売上の増加、生産量の増加、イベント参加者・訪問者の増加、コラボ商品の開発など、新たな活動の拡大などが確認された。　※P3～P.19に17地区の個別事例を掲載。

ビックリマン（ロッテ）とのコラボ商品
（株式会社網走ビール）

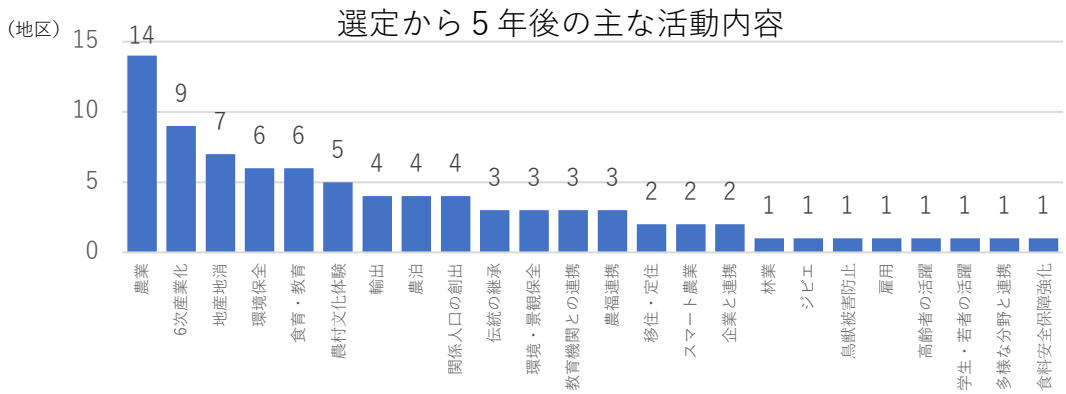
他地域の協議会からの研修の皆さんと
（石垣一子さん）

R7コキアの灯りプロジェクトで流しソーメンやじゃがいも
収穫体験を楽しむ参加者
（小菅沼・ヤギの杜）

アロエベラ商品（パッケージ等を刷新）
（しろう農園株式会社）

選定から5年後（令和7年度）の主な活動内容

○　農業、6次産業化、環境保全、地産地消が多く取り組まれているほか、食育・教育、農泊、輸出、関係人口創出や、農村環境・景観保全等、所得向上や地域活性化の取組が満遍なく見られた。



天使のジン
（６次産業化）

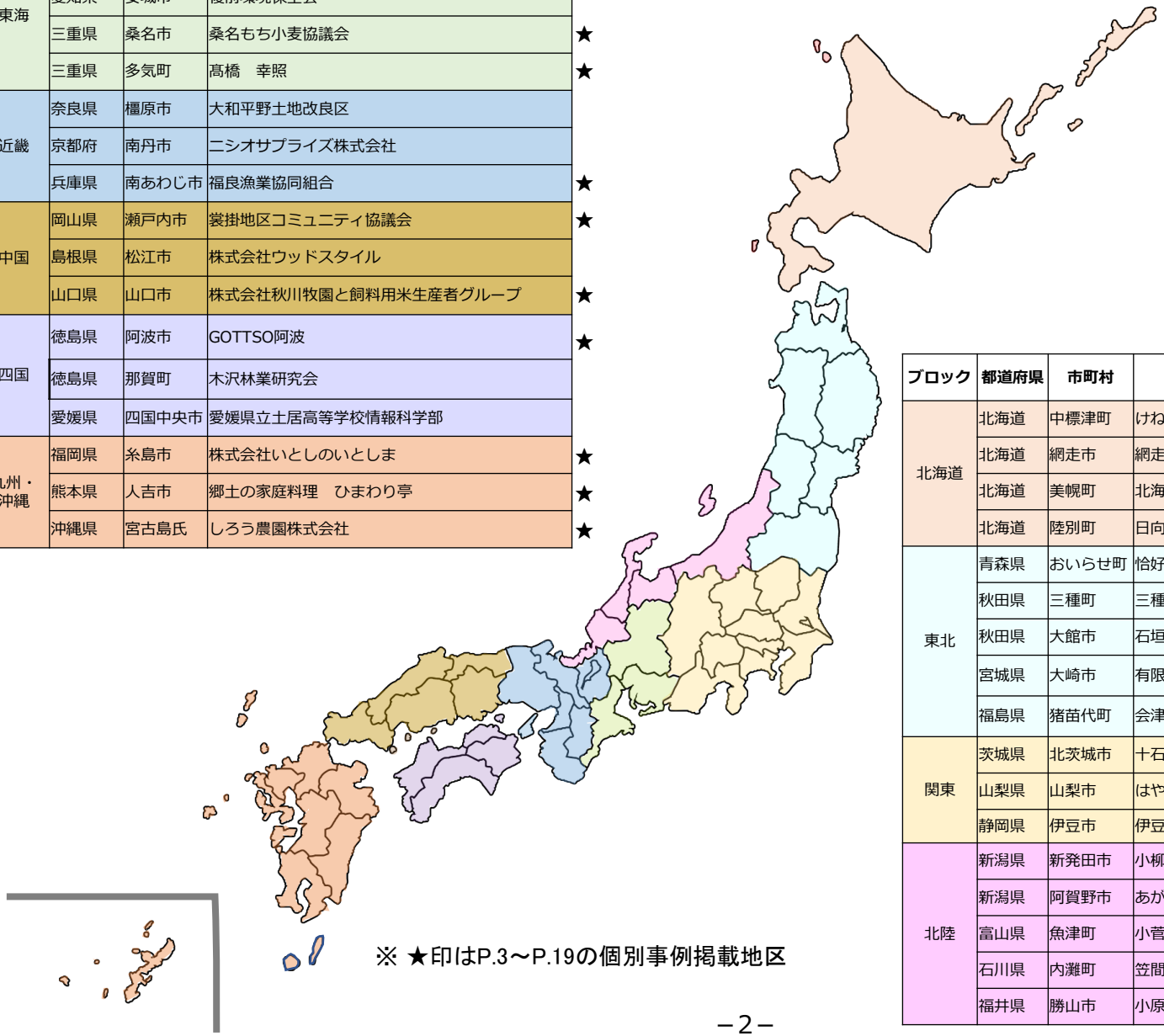
うみもりプロジェクト
（関係人口創出）

ブドウ栽培
（農業）

鳥獣害対策勉強会
（ジビエ）

第7回（令和2年度）選定地区一覧（日本地図）

ブロック	都道府県	市町村	団体名	
東海	岐阜県	北方市	岐阜県立岐阜農林高等学校流通科学科	
	愛知県	安城市	榎前環境保全会	
	三重県	桑名市	桑名もち小麦協議会	★
	三重県	多気町	髙橋　幸照	★
近畿	奈良県	橿原市	大和平野土地改良区	
	京都府	南丹市	ニシオサプライズ株式会社	
	兵庫県	南あわじ市	福良漁業協同組合	★
中国	岡山県	瀬戸内市	裳掛地区コミュニティ協議会	★
	島根県	松江市	株式会社ウッドスタイル	
	山口県	山口市	株式会社秋川牧園と飼料用米生産者グループ	★
四国	徳島県	阿波市	GOTTSO阿波	★
	徳島県	那賀町	木沢林業研究会	
	愛媛県	四国中央市	愛媛県立土居高等学校情報科学部	
九州・沖縄	福岡県	糸島市	株式会社いとしのいとしま	★
	熊本県	人吉市	郷土の家庭料理　ひまわり亭	★
	沖縄県	宮古島氏	しろう農園株式会社	★



ブロック	都道府県	市町村	団体名	
北海道	北海道	中標津町	けねべつ地域子育て支援ネットワーク	
	北海道	網走市	網走ビール株式会社	★
	北海道	美幌町	北海道美幌高等学校	
	北海道	陸別町	日向　優（第８回（Ｒ３年度）選定）	★
東北	青森県	おいらせ町	恰好農園アグリの里おいらせ	
	秋田県	三種町	三種町森岳じゅんさいの里活性化協議会	
	秋田県	大館市	石垣　一子	★
	宮城県	大崎市	有限会社マルセンファーム	★
	福島県	猪苗代町	会津よつば農業協同組合猪苗代稲作部会	
関東	茨城県	北茨城市	十石掘維持管理協議会	
	山梨県	山梨市	はやぶさ未来クラブ	★
	静岡県	伊豆市	伊豆市食肉加工センター「イズシカ問屋」	★
北陸	新潟県	新発田市	小柳　繋	★
	新潟県	阿賀野市	あがの衆	
	富山県	魚津町	小菅沼・ヤギの杜	★
	石川県	内灘町	笠間　令子	
	福井県	勝山市	小原ECOプロジェクト	

※ ★印はP.3～P.19の個別事例掲載地区

ディスカバー農山漁村の宝　フォローアップ（優良事例の状況）

網走ビール株式会社　【北海道網走市】

選定年：R２年（ビジネス部門受賞）

概　要

〇網走の歴史・文化、地域の産品などを活かしたクラフトビールを製造・販売し、網走の魅力も発信。
〇海外（台湾・中国など）への輸出も展開。また、大手企業との商品コラボだけでなく、地域貢献・地域興しを目標に、支援学校や大学と商品開発を行っている。

選定年（R２年）前後の状況

選定時までの活動状況

〇網走の特性と産品を活かした特徴的な商品を醸造し、網走の認知度向上に貢献。
〇網走の冬の風物詩「流氷」を仕込水につかった「流氷ドラフト」、網走産のサクランボや小麦、麦芽を使用した商品の開発、販売。ラベルデザインには網走監獄やオホーツク先住民のモヨロ人を採用するなどして、販売を通して地域の特徴や魅力を発信。
〇農家やJA、企業などの団体の依頼を受け、地域の農産物を原材料にクラフトビールを開発。

網走の特性や
産品を活かした商品

流氷ドラフト

選定直後の状況

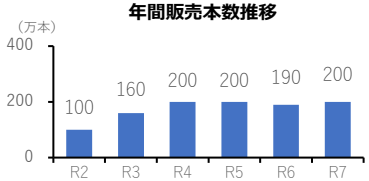
〇新聞に掲載。
〇社内のモチベーションに繋がった。
〇視察の希望が増え、年30件以上対応。
〇コロナ禍で苦しい場面がありつつも、商品の見直し、ラベルの変更、商品開発により認知度・売上アップ。

現在の状況及び今後の方向

現在の活動状況（５年後）

〇各企業や地域から依頼を受けて、カニの殻、規格外のじゃがいも、牛乳、豆などを使用したＰＢ/ＯＥＭでの商品開発・販売をし、年間製造商品は10アイテムから40アイテムへ増加。国内では、クラフトビール等、年間200万本を製造・販売。会社の売上も3億から6億へ。
〇日体大支援学校の生徒が育てた山ぶどうを使用した商品の開発と販売。生徒にも商品を楽しんでもらうためにアルコール商品の他にサイダーも期間限定で販売。
〇大手企業（ロッテ、ヤクルトスワローズなど）とのコラボ企画や、地域を超えて、美ら海水族館・ハウステンボスなどの観光施設ともオリジナル商品を開発し販売を行っている。

ビックリマン（ロッテ）とのコラボ商品



今後の展開方向

〇工場の増設が完了したので、海外展開（特に欧米）に注力していく。国内販売数と同等数を目指す。

〇OEM商品を40万本製造・販売を目指し、特に地元ならではの原材料とした商品開発に注力したい。

ディスカバー農山漁村の宝　フォローアップ（優良事例の状況）

日向　優　【北海道陸別町】

選定年：R３年（個人部門受賞）

概　要

○薬用植物を自ら栽培し、薬剤師資格や薬学博士号、製薬会社での研究経験で培った専門知識を活かした機能性商品の開発に取り組む。
○商品化だけでなく、地元の事業者とのコラボや大学との共同研究、地域を超えた連携により町の経済活性化に繋げている。

選定年（R３年）前後の状況

選定時までの活動状況

○地域おこし協力隊として、陸別町が実施する薬用植物栽培事業に従事していた。陸別町の気候に適した植物を探索しつつ、高麗人参やキバナオウギをハーブティーやキャンディーなどへ加工製品化。

○専門知識を活かし、町民向けに講演やワークショップを開催するなど地域活動にも注力していた。地域おこし協力隊の任期終了後、この活動を事業化し、2021年に「種を育てる研究所」

畑の様子

健康カフェでの講演会後

選定直後の状況

○北海道新聞や十勝毎日新聞等に掲載。陸別町だけでなく周辺地域との交流が増加。
○新聞掲載を契機に視察や取引の問い合わせが急増。医療関係者や野菜ソムリエなど年間100名程度が視察に来ており、そこから新たなコラボ商品・コラボメニューが誕生した。

現在の状況及び今後の方向

現在の活動状況（４年後）

○自ら栽培した薬用植物を使用した「天使のジン」や「太陽と畑のハンドクリーム」、「タネラボのハーブシロップ」等を商品化。さらに地元企業とのコラボ商品開発や、地域の飲食店でその店に合ったオリジナルハーブティーを企画・製造するなど活動の幅が広がった。

○町外で薬用植物等に関する講演活動を実施。農業、漢方と食品・化粧品の関係性から、その先の地域活性化について幅広く説明し、PRを行っている。また、近隣の大学と共同研究を行い、薬用植物の機能性等を調査。論文・学会発表を行い外部発信を積極的に行っている。

○地域おこし協力隊OB同士で連携し、町内向けのイベントを不定期で開催。

天使のジン

太陽と畑のハンドクリーム

今後の展開方向

○空き家を取得し、化粧品製造施設の設立を準備中。
○自社製品の製造のみならず、6次化に取り組む農業者のオリジナル化粧品の製造受託も計画している。

ディスカバー農山漁村の宝　フォローアップ（優良事例の状況）

石垣　一子　【秋田県大館市】

選定年：R２年（個人部門受賞）

概　要

〇農業体験や本場のきりたんぽづくり体験を核とした農泊の受け入れ推進を図り、地域を活性化。
〇官民共同の「大館市まるごと体験推進協議会」の会長として、自ら台湾に出向いてＰＲキャンペーンを実現

選定年（R２年）前後の状況

選定時までの活動状況

〇地域の農家のお母さん達に声をかけ、平成16年から郷土の伝統食きりたんぽと農業体験による農泊の受入をスタート。

〇平成29年に(株)ＪＴＢ主催の「ＪＴＢ交流創造賞」を受賞を機に外国人旅行者の誘致に取り組み、外国人旅行者の受け入れが大幅に増加（令和元年時点：268人）

〇外国人宿泊者の国籍は28カ国に増え、世界的な広がりができている。

言葉から地域を伝える秋田弁ラジオ体操（本人一番右）

本場のたんぽづくり体験でのおもてなし

選定直後の状況

〇選定後、地元新聞社２社への記事掲載、TV番組（NHK、全国ネットのTV局）への出演多数。
〇他自治体や大学からの講演依頼が増え活動の横展開を図る機会が増加。
〇選定当時（令和２年）はコロナ禍で農泊の取組ができず、WEBによる「きりたんぽづくり体験」（材料はあらかじめ宅配便で配送）の商品化を進めた。（R4～開始）

地方紙に掲載された記事

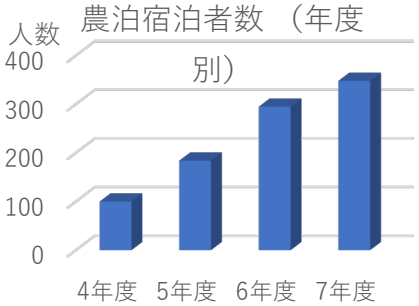
秋田県知事へ受賞を報告

現在の状況及び今後の方向

現在の活動状況（５年後）

〇令和２年度からコロナ過の影響で、農泊に取り組めない時期が続いたが、令和４年度から取組を再開。
〇活動再開後、地域資源を最大限活用した体験・滞在型観光の仕組みづくりに地道に取り組んだ結果、国内外の宿泊者数、外国人宿泊者の国籍数ともに順調に増加。特に台湾から陽気な母さんの店へのツアー客が増加（R5：7件192人、R6：29件832人、R7：34件986人（9月現在、予約込み））。

他地域の協議会からの研修の皆さんと



今後の展開方向

〇会長を務める「大館市まるごと体験推進協議会」と連携し、活動を継続して行きたい。
〇特にコロナ禍の影響や高齢化で減少した農泊受入れ農家数の増加及び活動の後継者の育成に力を入れたい。
〇海外とりわけ台湾へのさらなる商圏拡大（きりたんぽづくりや農業体験）に向け（一社）秋田犬ツーリズム等と連携強化していく。

ディスカバー農山漁村の宝　フォローアップ（優良事例の状況）

準グランプリ

有限会社マルセンファーム【宮城県大崎市】

選定年：Ｒ２年（ビジネス部門受賞）

概　要

〇令和元年東日本台風の浸水水害による壊滅的被害から早期復旧を果たし、高糖度トマトやプレミアムトマトジュースにより地域農業を支える。

選定年（Ｒ２年）前後の状況

選定時までの活動状況

〇令和元年東日本台風の水害で壊滅的な被害を受けるも、地域ボランティア等の協力のもと従業員の雇用を守りながら経営を継続。
翌春には復旧した施設でトマトの収穫を開始。
〇高度な技術を要し栽培が難しい高糖度トマトを経営の柱とし、一般のトマトとの差別化。
〇ＩＣＴ活用による環境制御やＪ-ＧＡＰ認証取得などにより、高品質なトマトの安定供給を維持。
〇生食以外にも果汁糖度で選別規格を定めたプレミアムトマトジュースとして加工委託販売し国内外に販路を拡大。

本社、農業用機械、栽培施設等すべてが水没

被災翌年にはトマトを収穫するまでに復旧

選定直後の状況

〇全国選定を受けた令和２年は、前年の水害からの復旧途上であったことや、コロナ過の影響もあり、全国選定を受けたことでの大きな変化はなかった。
〇水害のからの復旧の話題と併せて地元新聞社への記事の掲載（３社）やＴＶ出演（NHKや地元民放）の機会が増加し、土づくりや品質、糖度にこだわったトマト栽培等をＰＲする良い機会となった。

展示会にへも積極的に参加

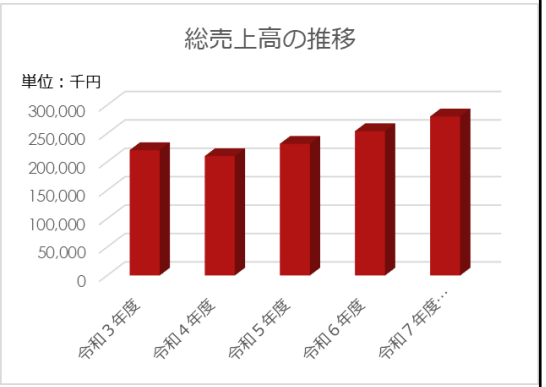
現在の状況及び今後の方向

現在の活動状況（５年後）

〇自社HP、SNSでの積極的な情報発信、楽天市場への出店等によりリピーターが増加
〇国内展示会への積極的な出展や土づくり、品質、糖度にこだわったトマト栽培が評判となり、取引先が増加。
〇結果、トマト以外の農産物の売り上げも伸び、全体的な売上額も上昇。

糖度にこだわったトマト栽培を実践

果汁糖度で選別規格を定め製造したプレミアムトマトジュース



今後の展開方向

〇令和７年度から、物価高から販売額が落ちている菊の栽培面積を減らし「いちごの施設栽培」に取り組む予定。将来的には収穫体験や６次産業化（スイーツ製造、販売）にも取り組みたい。
〇プレミアムトマトジュースの輸出（ターゲット国は北米や欧州）に本格的に取り組みたい。

ディスカバー農山漁村の宝　フォローアップ（優良事例の状況）

伊豆市食肉加工センター「イズシカ問屋」【静岡県伊豆市】　選定年：R２年（ビジネス部門受賞）

概　要

○獣害対策として捕獲し、山へ埋却されていたシカ・イノシシを買い取り、解体・精肉・卸売を行う「イズシカ問屋」を設立。
○大学との連携によるメニュー開発や、学校での鳥獣被害対策の出前授業・試食を実施し、獣害対策と食肉利用の両面から若年層へＰＲを実施。また、住民への「鳥獣害対策勉強会」も実施。

選定年（R２年）前後の状況

選定時までの活動状況

○有害鳥獣と呼ばれていたシカ・イノシシを
食肉利用し、地域ブランドに変える取り組み
が稼働。伊豆地域のシカ生息頭数は5年前と比較して30％減。

○「鳥獣害対策勉強会」や、「わな講習会」を実施。

安心安全なイズシカ肉
イズシシ肉を提供

選定直後の状況

○全国より視察申込（R3 15件）
　うち1件はその後の取引に繋がる

○R4には関東ブロックで選定された他の事業者とのサミット(交流会)に参加

○R5には累計受入頭数が1万頭を突破
　地元紙に取り上げられる

鳥獣対策優良活動
(捕獲鳥獣利活用部門)
も受賞

現在の状況及び今後の方向

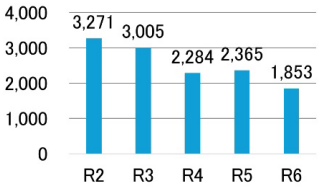
現在の活動状況（５年後）

○選定後、毎年度シカ・イノシシによる農作物被害は減少傾向に。
○現在は豚熱ウイルスの影響でイノシシの受入停止中(R4.6月より)
　→停止中でも総搬入頭数は800～1000頭をキープ
○平日金曜日の視察を受け入れを継続。

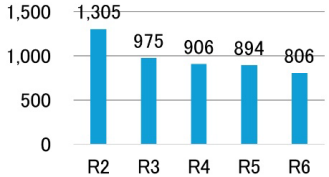
鳥獣害対策勉強会

搬入後、精肉処理し
保冷車で出荷

農作物被害額（万円）



イズシカ問屋搬入数(頭)



※R4,6月以降は、シカのみ

今後の展開方向

○今後も継続して、鳥獣被害防止のための活動を実施していく。

ディスカバー農山漁村の宝　フォローアップ（優良事例の状況）

はやぶさ未来クラブ　【山梨県山梨市】

選定年：R２年（コミュニティ部門受賞）

概　要

○県のエコファーマーやアグリマスター(農業熟練者)に認定されたブドウ農家が、若者への農業指導を多く依頼される中、周囲の有志とともに農業が抱える諸問題に対応していくため設立。
○農業体験希望者を受け入れ人材育成（農福連携を含む）、就農希望者には農業指導を実施。さらには、ブドウ以外の果物の栽培や、ワイン醸造に取り組み、経営強化を行う。

選定年（R２年）前後の状況

選定時までの活動状況

○人材育成として300人を超える高校生・高専生・大学生を受け入れ。脱サラを目指す社会人や、福祉事務所を通じて障害者も受け入れる。
○ブドウ栽培のみならず、人材育成やワイン醸造を手掛ける法人を更に２法人設立。ワインについては規格外ブドウ１ｔを活用した。
○数少ない新規就農者をサポートできる体制を構築。

農業体験：生食用ブドウの収穫

選定直後の状況

○新型コロナウイルス感染症の影響により、
農業体験希望者の受入れ等が難しい状況になったが、令和３年秋頃から活動を本格的に再開。
○農林水産省主催の地域サミットや東京有楽町で行われたマルシェに参加。
○豊洲場外マルシェにて、規格外のブドウを有効活用したワインやモモやスモモのジュースを販売し地域農業に魅力を伝える活動を行った。

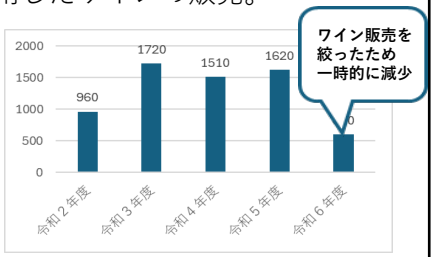
豊洲場外マルシェの様子

現在の状況及び今後の方向

現在の活動状況（５年後）

○山梨市牧丘町の中心部に古民家及び周辺土地を購入し、「はやぶさアグリベース（仮名）」として、農業体験希望者を受け入れられる施設を2年前より整備。
○規格外や未利用のブドウを活用したワインの販売。

山梨市牧丘町の古民家



ワイン販売数推移（本）

今後の展開方向

○来年春ごろから「はやぶさアグリベース（仮名）」を運営予定。
○敷地内で市民農園的に果樹やハーブ、野菜等を栽培するほか、隣接した神社や公営グラウンドで散策やスポーツを楽しめるスペースを整備。
○来訪者に地元や自家食材で食事の提供や休憩、将来的には宿泊もできるように整備。

ディスカバー農山漁村の宝　フォローアップ（優良事例の状況）

小柳　繁　【新潟県新発田市】

選定年：R２年（個人部門受賞）

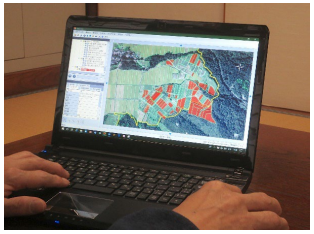
概　要

〇空家を地域資源として活用する新組織を設立し、古民家を拠点として幅広い交流活動に取り組むなど、新たな活動を展開
〇柿酢づくり体験などの地域資源を活かしたイベントや古民家レストランにより関係人口を創出

選定年（R２年）前後の状況

選定時までの活動状況

〇 GISを活用し集落の現状を見える化。住民へ共有し集落ぐるみでの活動を活発化。


GISによる遊休農地の共同管理

〇　ビオトープへの再生などにより耕作放棄地を解消。解消面積0.4ha→4.5ha（H27→R1）。

〇 地域資源を活用した農業体験活動（田植えや稲刈り体験）のほか、柿酢作り体験など交流活動を実施し関係人口 を創出。イベントには約200人（R1）が参加。

ビオトープで生き物探検を行う参加者

選定直後の状況

〇 秋田県の議員連盟からの視察を受入。
〇 地元大学のSDGsに関するラジオ番組に出演。大学と連携した活動の展開。

〇 農林水産省の有識者検討会への参加のほか、農村活性化を目指す団体とのGISに関する意見交換の実施。

田植え体験への参加者

現在の状況及び今後の方向

現在の活動状況（５年後）

〇 空家管理に困る地域の女性からの相談をきっかけに、空家も地域資源とする「たけまた地域再生プロジェクト」を設立。これまでの団体の代表を退任し、独自の活動を展開。空家を活用したワークショップや見学会の実施により、若い家族世帯が移住。

交流拠点「古民家雅蔵」

〇 交流拠点「古民家雅蔵」をレストランやイベント会場として活用し、レストランでは女性たちが地元食材を使用した田舎ご飯を提供するなど、地域活性化と食育を実践。

古民家レストラン「雅蔵gohan」

〇 柿酢作り体験や竹で器や箸を作り遊ぶ「里山自然体験楽校」といった地域資源を活かしたイベントの開催により、関係人口を創出。参加者は毎年500人を超える。

〇 「古民家雅蔵」を会場に県内音楽ユニットのコンサートや県立歴史博物館の移動展示を開催するなど、多様な団体と連携して活動を行うほか、SNSやクラウドファンディングにより積極的に情報を発信。

地域の柿を使った「柿酢づくり」

今後の展開方向

〇 今後も地域資源を活かした体験交流活動や古民家レストランによる食育を継続し、地域活性化を実施していく予定。

ディスカバー農山漁村の宝　フォローアップ（優良事例の状況）

小菅沼・ヤギの杜　【富山県魚津市】

選定年：R２年（コミュニティ部門受賞）

概　要

○農村サポーターや他地区との連携による作物の作付や収穫体験、稲作アート等を開催し、交流活動によって関係人口を創出
○交流活動を通じて、古代米や加工品は知名度が向上し、地域農産物の売り上げ及び普及に貢献

選定年（R２年）前後の状況

選定時までの活動状況

○耕作放棄地を解消した棚田を活用し、ハーブやにんにくを栽培。 活用面積は1.2→3.3haに拡大（H27→R元年度）。
○作付・収穫体験やコキアのほうき作り体験を開催し参加者は、150人→800人に増加（R元年度）。地域の活性化に貢献。

ハーブの効能など説明を受ける参加者

コキアのほうきでパフォーマンスをする参加者

にんにくの植付作業の状況

選定直後の状況

○新聞２社に掲載（朝日、北陸中日）。

○R4年　第12回地域再生大賞優秀賞受賞。

○R5年　第13回豊洲場外マルシェ参加し特産品の販売促進。

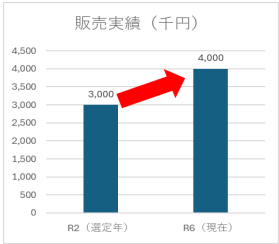
第13回豊洲場外マルシェに参加

現在の状況及び今後の方向

現在の活動状況（５年後）

○古代米つながりでの石川県中能登町の住民との交流や、ボランティア等と連携した交流活動の実施により、関係人口が増加。
○新聞３社（朝日、北陸中日、北日本）に取組が掲載され、地区への訪問客が増加したため、訪問客向けの新たな取り組みを現在企画。
○加工品等の知名度の向上により、売上が3,000→4,000千円（R2→R6年度）に増加し、地域農産物の普及に貢献。

R7コキアの灯りプロジェクトで流しソーメンやじゃがいも収穫体験を楽しむ参加者



販売実績の推移

R7.9.11取組が地元紙間に掲載

売上が向上した加工品

今後の展開方向

○今後も里山の景色を守り、里山の役割を子供たちに伝承していくためにも、仲間を増やし、自分たちも楽しみながら地域を盛り上げる活動を継続していく。

ディスカバー農山漁村の宝　フォローアップ（優良事例の状況）

髙橋　幸照　【三重県多気町】

選定年：Ｒ２年（個人部門受賞）

概　要

○あじさいまつり等のイベント企画、一般社団法人「ふるさと屋」を設立して「農村福祉」、「農村企業連携」による持続的な地域づくりを推進。
○農地の利用集積等を目的に農事組合法人「元丈の里営農組合」を立ち上げ、米粉パン、日本酒などの６次産業化を推進。

選定年（Ｒ２年）前後の状況

選定時までの活動状況

○地域の独居老人の増加や農家の高齢化、後継者不足が進む中、福祉活動のための一般社団法人「ふるさと屋」や、農地の利用集積などを目的とした農事組合法人「元丈の里営農組合」の立ち上げに貢献。

立梅用水の歴史を伝える
髙橋さんの紙芝居

○米粉パン、日本酒などの6次産業化を推進し、イベントなどを企画。あじさいまつりは1日1万人の人出となるイベントに発展。また特産品や米粉パン及びお酒の売上は年間150万円を超え、地域活性化に貢献。

米粉パン「たきぱん」と
夫婦酒「彦左衛門と須賀」

選定直後の状況

○新聞に10回以上掲載
○情報誌「みえの土地改良」に情報が掲載
○選定後に視察団体が年間60回以上訪問
○選定後、お酒の販売が伸び500本/年以上を販売

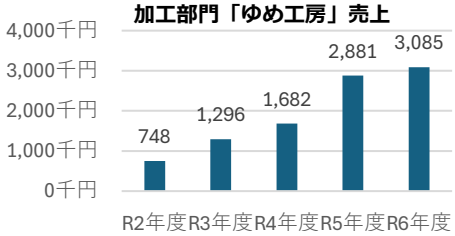
あじさいまつり・立梅用水ボート下り

現在の状況及び今後の方向

現在の活動状況（５年後）

○現在は、元丈の里営農組合の取り組みに注力。
○元丈の里営農組合を中心に農地を集積・集約し、ブロックローテーションを確立して効率的な営農を継続するともに、生産した米を製粉しパンケーキミックス「たきぱん」や「玄米麺」の製造・販売を拡大。
○令和２～４年度にスマート農業実証プロジェクトで獣害対策を目指した監視システムを開発実証。現在は、農業の生産現場でデジタル技術を活用し、人手不足を補い生産力を高める農業を推進。
○令和５年度に波多瀬地区集落協定を担い手農家、区と締結。
○令和７年10月に米粉やサツマイモを使った新たなスイーツを製造・販売するお店「ゆめこや」を開店。

米と芋のおやつ&惣菜専門店 「ゆめこや」



今後の展開方向

○令和７年度から各家庭のWi-Fiを借りて地域内Wi-Fiネットワークを構成し、広範囲の情報収集によりデジタル農業をさらに推進。

家庭用Wi-Fiを借りWi-Fiネットワーク構成

ディスカバー農山漁村の宝　フォローアップ（優良事例の状況）

桑名もち小麦協議会　【三重県桑名市】

選定年：Ｒ２年（ビジネス部門受賞）

概　要

○小麦卸売、地元農家、パン屋による「桑名もち小麦プロジェクト」に加え、県、市、商工会、ＪＡの連携により「桑名もち小麦協議会」を平成29年に設立し、独特な食感の日本品種もち小麦の普及とブランド化に取り組む。
○地元でのＰＲイベントの他、首都圏・海外（台湾等）へも展開。地元学校との協力や農福連携も実施。

選定年（Ｒ２年）前後の状況

選定時までの活動状況

○桑名もち小麦を使ったミックス粉、冷凍うどん、ビール等の商品開発、古民家利用のアンテナショップ「MuGicafe」での販売及び種まきから収穫までの体験イベントで地元のPR活動に取り組む。首都圏、海外へもPR活動を展開。

MuGicafeでもち小麦パンケーキを提供

○令和元年度には、もち小麦出荷量が15t（4年で2.5倍）、使用する飲食店が50店（４年で5倍）に増加。

○地元高校と連携しアンテナショップのメニューを検討するほか、特別支援学校と連携し麦ストロー作りに取り組む。

特別支援学校生徒による麦ストロー作り

選定直後の状況

○令和２年12月に２社の新聞に受賞掲載。

（※令和２年度はコロナ禍のため例年総理官邸で開催されていた選定証授与式及び交流会が中止となり、その写真によるSNSでの効 果的な発信はできなかった。）

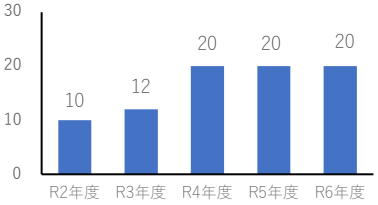
MuGicafeで東海農政局から選定証を授与

現在の状況及び今後の方向

現在の活動状況（５年後）

○もち小麦のミックス粉等の販売やカフェでのメニュー提供、収穫祭イベント、JAまつりへの参加及びSNSでの情報発信により、桑名もち小麦の魅力をPRしている。
○桑名市のふるさと納税返礼品のほか、学校給食にも採用されている。
○桑名もち小麦の新たなアンテナショップとなる「ムギノワ」を令和５年に開業。もち小麦を使ったパンやパスタをカフェで提供し宿泊も受入れ。
○令和４年より桑名高校文化祭へのワッフル出店やOB企画のうどんにも「桑名もち小麦」を使ってもらい、現役生へのPRも行っている。
○令和７年９月に大阪万博の三重県の日に出展し、海外や日本の様々な地方の方々に「桑名もち小麦」をPRできた。
○もち小麦の生産量は20tと横ばいではあるが、使用する飲食店が全国で75店に増加し、広がりを増している。

桑名宿にオープンしたカフェ＆ステイ「ムギノワ」



桑名もち小麦の生産量（ｔ）

今後の展開方向

○今後は、コロナで途絶えてしまった海外の販路拡大を図るために、韓国にカフェをオープンして、海外のアンテナショップとして海外のBtoBに繋げていく。

ディスカバー農山漁村の宝　フォローアップ（優良事例の状況）

福良漁業協同組合【兵庫県南あわじ市】

選定年：Ｒ２年（ビジネス部門受賞）

概　要

○「淡路島３年とらふぐ」等の養殖を起点として、６次産業化や企業との連携等を通じた地方創生に取り組む。
○旅館、ホテル、飲食店等、地元企業との連携によるご当地メニューの開発のほか、地元学校給食への提供を通じた食育にも取り組む

選定年（Ｒ２年）前後の状況

選定時までの活動状況

○養殖の困難な３年物のとらふぐやサクラマスの養殖技術を確立し、ブランド化に成功。これらの加工・販売事業の売上高は、1.5億円（平成27年度）から2.3億円（令和元年度）に増加。

手前から1年目、2年目、３年目のとらふぐ

○淡路島内のホテル・旅館・飲食店等で開発されたご当地グルメのメニュー数は、23（平成28年度）から82（令和元年度）に増加。

○市や漁港組合では地場食材を利用し地産地消による淡路島３年とらふぐを使った「歯切り」体験、調理見学、試食等の食育を実施。

３年とらふぐについて学ぶ

選定直後の状況

○淡路島３年とらふぐが地理的表示（ＧＩ）に登録されブランドものとしてより積極的にＰＲ。

○美食都市アワードに淡路島が選出。その食材に淡路島３年とらふぐが位置づけ。

○地元マスコミの取材や新聞紙に掲載。

○淡路島３年とらふぐの認知向上により、近場で食事をする人が増加。

地理的表示認定

現在の状況及び今後の方向

現在の活動状況（５年後）

○良好な漁場（湾は自然のいけす）で、淡路島３年とらふぐのほかにサクラマスの養殖業が中心。また、養殖技術の向上により、冬は淡路島３年とらふぐ、春はサクラマス、夏は鱧とほぼ周年で食材を提供。

○養殖に関する生産者、仲卸・仲買人は仕事内容が被らないよう分業制が確立（生産者は生産・加工・販売。仲卸人は島内の旅館、ホテルを担当。仲買人は島外の市場・ホテル等を担当。）

○淡路島サクラマスプロモーション実行委員会（南あわじ市）が新ご当地グルメ開発を実施し洲本市、淡路市含む島全体の取組として拡大。ご当地グルメ提供メニューは20店舗23（平成28年）から34店舗54（令和６年度）に増加。

ご当地グルメメニュー

今後の展開方向

○市や漁業組合が主催する祭り、イベントと連携し、淡路島３年とらふぐの積極的なＰＲを図る予定。

○淡路島３年とらふぐのブランドを知る人は商品を購入するが、全国的な知名度は低い。知名度アップを図りながら更なる販路拡大を図る予定。

ディスカバー農山漁村の宝　フォローアップ（優良事例の状況）

もかけ
裳掛地区コミュニティ協議会【岡山県瀬戸内市】　選定年：R２年（コミュニティ部門受賞）

概　要

○地区への移住者受け入れのためお試し住宅の運営や先輩移住者（就農者）による相談対応等を実施。
○従前からの取組（情報発信、空き家整備、遊休農地管理、外部との交流、てらこや等）に加え、「子どもの居場所づくり」の取組を拡大。 地区移住者(就農者)、集落支援員(市設置)、他地域の移住者等と協力・連携し、学校給食食材供給やこども食堂の運営なども開始。

選定年（R２年）前後の状況

選定時までの活動状況

移住者受入による地域人口維持のための活動を実施
○地域誌の発行など情報発信
　地域についての様々なことがらを掲載した地域誌「もかけ通信」を不定期発行。移住相談会やＨＰ等を利用して地域の魅力を発信。
○空き家、遊休農地の整備
　地域住民による住宅（空き家）の整備、就農者のための遊休農地の整備と(農業体験等による)管理を実施。移住希望者の滞在場所、外部との交流拠点として補助事業で古民家改修。
○外部との交流機会創出
　農業体験受入や地域とゆかりある企業のイベントへの参加、地域行事への大学生ボランティアの受入などを実施。
○寺子屋の開設
　教員経験がある移住者の協力を得て「もかけてらこや」を開設し、子どもたちを相手に宿題の指導、お楽しみ会を開催。

移住者受入の空き家整備

移住フェア会場と地元をつなぐ

選定直後の状況

○コロナ禍で対面や密になる行事への参加や開催が難しくなったが、その状況に応じた対応に変えていった。例えば、移住は、フェア参加による不特定多数相手ではなく興味のある方の問合せへの対応へ、子どもたちの居場所づくりは蜜を避ける外遊びを中心に広げるなどである。
○大学生ボランティア（地元大学地域づくりサークル）との連携（地域行事の運営協力・参加、てらこやでの宿題指導等）を地道に継続。

現在の状況及び今後の方向

現在の活動状況（5年後）

○選定時前後の取組は多くが継続中。先輩移住者（就農者）による相談対応なども始め、移住しやすい環境づくりも実施。
○子育て支援として、てらこや以外に英語教室、こどもひろば、ライブラリー、子育てマルシェなど「子どもの居場所づくり」を展開。
○集落支援員（市）などの機関や移住者等と協力・連携、補助事業も活用し、学校給食への食材供給、こども食堂の運営などに取り組む。

大幅に増えた行事（こどもひろばチラシ）
左：令和3年7月　右：令和8年1月

うみもりプロジェクト

今後の展開方向

○コロナ禍で手法や内容を変えるなど工夫し活動を続け、また、地域内小学校の存続が地域維持の要と考え、子どもの居場所づくりに取り組んできた。その中で関係を築いてきた大学サークルや、他の地域からのマルシェ出展など外部人材も貴重な戦力となっている。
○地区への移住が増えない、活動の担い手が高齢化する等の課題はあるが、地元漁協と協力した新規就業者受入など、様々な人・団体と連携・協力し、移住者受入と地域が元気になる活動を継続する。
○これまで不定期に開催してきた防災訓練や心肺蘇生講習などの取組の発展を目指し、自主防災組織の立ち上げを行う。

ディスカバー農山漁村の宝　フォローアップ（優良事例の状況）

準グランプリ

株式会社秋川牧園と飼料用米生産者グループ【山口県山口市】　選定年：Ｒ２年（個人部門受賞）

概　要

○従前からの取組（循環型農業、飼料用米生産技術向上、 ７次産業化、鶏卵輸出）を継続的に実施。
○飼料用米の作付面積は令和２年度の135haから令和6年は179haに拡大。平均700kg以上と高い単収を維持。
○国内外の需要に対応して、冷凍食品の商品開発等で商品アイテムを増やし、国内向けや輸出等の売上を伸ばしている。

選定年（Ｒ２年）前後の状況

選定時までの活動状況

畜産業者がリードして近隣農家と取り組む循環型農業、飼料用米生産と７次産業化
○米農家の技術活用と耕作放棄地復活
　安心・安全な国産飼料確保のため米農家と耕畜連携を始め、耕作放棄地も活用して１３５ha作付。
○農業者の研鑽に支えられた飼料用米生産
　年2回の現地検討視察会等を行い、農家同士で研鑽を重ね、単収１トンの農業者も出現。飼料用米日本一コンテストで毎年入賞者を輩出し、平成２９年には農林水産大臣賞を受賞。
○循環型農業の実現と7次産業化の取組
　鶏に飼料用米を給餌し、糞の堆肥を米ほ場に年間約700トン使用。循環型農業を実現。
　鶏は生産から加工・販売までの6次産業化を行い、そのエサとなる飼料用米を生産する「＋１」を加えた7次産業化に取り組む。
○輸出の開始
　令和元年から飼料用米を餌にした鶏卵の輸出を開始。

飼料用米生産者グループ

飼料用米で育てる鶏

選定直後の状況

○コロナ禍の影響で鶏卵の輸出額は減ったものの、他の商品（冷凍食品等)を投入して、全体の輸出額は徐々に増加。
○コロナ禍による巣ごもり消費の増加や高級志向をとらえて、鶏肉や鶏卵等を使用した冷凍食品の開発を、５～７アイテム/年のペースで続け、宅配等直販で売上を伸ばした。

現在の状況及び今後の方向

現在の活動状況（5年後）

○従前からの取組（循環型農業、飼料用米生産技術向上、 ７次産業化、鶏卵輸出）を継続的に実施。
○飼料用米の作付面積は令和２年度の135haから令和6年度は179haに拡大。平均700kg以上と高い単収を維持。
○国内外の需要に対応して、冷凍食品の商品開発等で商品アイテムを増やし、国内向けや輸出等の売上を伸ばしている。

コロナ禍以降に続けてきた商品開発

取組参加者のほ場を回り研鑽を積む

今後の展開方向

○昨年からの食用米価格高騰で、全国的に飼料用米生産が減少する中、当初からの取組理念を耕種農家としっかりと共有できている。7年度に参加農家の逝去による作付減少も、後継者を充て補うとともに、他の参加農家の増産意欲もあり、面積は拡大見込。
○飼料用米生産の取組は、選定前から山口県内に限らず、飼料用米種子の販売先である全国の耕種農家とともに「飼料用米プロジェクト」として進めてきた。今後も、畜産業者がリードしながら、食糧 生産の基盤である各地域の水田を守る取組を地道に継続していく。

準グランプリ

ディスカバー農山漁村の宝　フォローアップ（優良事例の状況）

GOTTSO（ごっつぉ）阿波【徳島県阿波市】

選定年：R２年（ビジネス部門受賞）

概　要

〇従前からの取組（野菜によるまちのPR、野菜のブランド化、食育活動）を継続的に実施。
〇新たなブランド野菜として、ミニ白菜「ミルフィ～菜」を生産、夏は「美～ナス」、冬は「ミルフィ～菜」と、GOTTSOのブランド野菜を通年供給。収益向上やフードロス削減につながる販売ルートを開拓。また、食育活動や教育機関との連携を拡大。

選定年（R２年）前後の状況

選定時までの活動状況

若手農業者による地域資源（野菜）を使ったまちおこし
〇野菜の力によるまちおこし
　県内トップクラスの野菜出荷量の阿波市を「野菜の力でまちおこし」を目標に、関西～関東まで出張販売と広報を展開。まちのPR隊として活動。
〇ブランド野菜づくり
　子どもの苦手なナスを好きになってもらうため、翡翠ナスであるブランド野菜「GOTTSO美～®ナス」を生産。他の野菜のブランド確立のため試験栽培。
〇地元幼稚園・小学校での食育
　美～ナスを教材に幼稚園や小学校で食育を行い、年数を経て、ナス好きの子供が増加。
〇2020東京五輪選手村にブランドナス納品目標に活動
　五輪選手村での食材としての採用を目指し、グローバルGAPやとくしま安²GAP（優秀）を取得。

GOTTSO阿波のPRポスター

東京でマルシェ開催

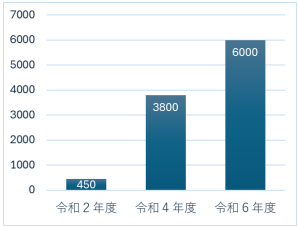
選定直後の状況

〇自治体や関係団体の協力も得て、2020東京オリ・パラ選手村に美～ナスの納品を達成。
〇コロナ禍以降、市場価格に左右されない販売ルート開拓に取り組み、卸売業者を通じ、客単価アップのためにこだわりの食材を求める飲食店への販売が拡大。そこでは主に規格外品を出荷し、収益向上やフードロス削減に取り組む。

現在の状況及び今後の方向

現在の活動状況（5年後）

〇従前からの取組（野菜によるまちのPR、野菜のブランド化、食育活動）を継続的に実施。
〇新たなブランド野菜として、ミニ白菜「ミルフィ～菜」を生産、夏は美～ナス、冬はミルフィ～菜と、GOTTSOのブランド野菜を通年供給。
〇生産現場にバイヤーを招くなどして価格設定の根拠を説明し理解を得て、市場価格に左右されない販売ルートの開拓を進め、収益向上やフードロス削減を実現。
〇食育活動は阿波市以外の小学校からも依頼。吉野川高校と連携活動、食ビジネス科の教材に美～ナスが採用される。



美～ナス の飲食店向け出荷量(単位：kg)

市特産品に認証された ミルフィ～菜

今後の展開方向

〇まちおこしのため継続してきた活動、収益向上のための活動を引き続き行っていく。今後は、県内のあちこちでGOTTSOのブランド野菜が生産されるような活動を展開し、新たなメンバーの加入を進め、野菜を使ったまちおこしを広げていく。

ディスカバー農山漁村の宝　フォローアップ（優良事例の状況）

株式会社いとしのいとしま【福岡県糸島市】　選定年：R２年（コミュニティ部門受賞）

概　要

〇地魚の価値を高めるための取組として、飲食業を主としつつ、会員から資金・マンパワー・アイディア等を集め、一緒に新たな地魚サービスを開発する「地魚BANK」を展開。
〇取組に共感した会員とともに新しいサービスを考え、糸島の地魚の魅力を伝えることで、美しく伝統ある農山漁村を次世代に継承。

選定年（R２年）前後の状況

選定時までの活動状況

〇「糸島産のみしか使わない」「絶対に値下げ交渉しない」をコンセプトとした飲食店「志摩の海鮮丼屋」「駅前のバル」を経営。
〇地魚の魅力を五感で体感する「放課後じざかな倶楽部」や「地魚博覧会」「地魚運動会」等のイベントを定期的に開催。
〇糸島の漁村文化を体験する地魚ツーリズム「うお旅」を企画。
〇地場産食材を提携する企業主導型保育園へ供給。

地魚のみを使う
志摩の海鮮丼屋の海鮮丼

漁具の展示、漁師の話、
食事を楽しむ地魚博覧会

保育園への
地場産食材供給事業

伝統漁法について学び食する「うお旅」

選定直後の状況

〇飲食業等はコロナの影響を受けるも、拠点整備やブドウ圃場整備等のコンテンツ準備期間として活動。
〇西日本新聞に３回以上掲載。
〇NHK「うまいッ！」で放送（2021年３月22日）。
〇農泊推進事業に取り組む（R元～令和３年）。

西日本新聞
（2021年４月29日）

現在の状況及び今後の方向

現在の活動状況（５年後）

〇地魚BANKというコミュニティの中から生まれたアイデア「地魚と楽しむワイン造り」を実現させることができ、自社農園でのブドウ栽培、ワインの販売を開始。
〇ブドウ栽培では、耕作放棄地の再生や離農ハウスを譲り受け、約６反栽培。
〇経済産業省等の補助金を活用しつつ、飲食棟と醸造棟併設の宿泊拠点施設が完成し、ワイン販売開始から半年で1,000万円以上を売り上げ。

糸島マスエワイナリ

飲食･醸造･宿泊拠点施設
をオープン

Before

After

耕作放棄地を３0a再生

→

ブドウ栽培

今後の展開方向

〇ブドウの作付面積をさらに拡大し、自社農園栽培のブドウのみを使ったワイン造りを目指す。
〇糸島や福岡の様々な食と共に糸島の食文化を作りたい。
〇漁業・農業や地域について興味をもってもらい、生産現場に携わる人を増やすため、体験・宿泊事業を本格展開する。

ディスカバー農山漁村の宝　フォローアップ（優良事例の状況）

郷土の家庭料理　ひまわり亭【熊本県人吉市】　選定年：R２年（ビジネス部門受賞）

概　要

○配食を通して、地域の高齢者の見守りなどを行うボランティアグループからスタート。さらに法人を設立して、自立した稼ぐ農山村コミュニティビジネスを実施
○築120年の古民家を移築・改修し、郷土の家庭料理でもてなす農家レストランを開業し、農泊の拠点として活動。食育や総菜の製造・販売も実施

選定年（R２年）前後の状況

選定時までの活動状況

○地産地消地元お母さん達のレストラン業務（月替わり御膳）
○食文化の創造と伝承（レシピ集発行、郷土料理伝承塾主催）、グリーンツーリズムと食育の推進、農泊推進（インバウンド含む）
○平成29年７月　古民家を再生し、地元の食資源を活かし、「まちづくり、人づくり、元気づくり」を目的とする交流施設“食・農・人総合研究所 リュウキンカの郷”をオープン
○令和２年７月の球磨川の豪雨水害で被災し休業したが、被災直後から、被災地域に炊き出し、支援物資配布等の支援に奔走するなど、「食」による支援活動を開始。

令和2年豪雨災害支援活動:
キッチンカーによる炊き出し
延べ１万食を無料提供

選定直後の状況

○豪雨水害で被災し休業中であったが、「食」による支援活動を継続しつつ、支援物資センターとしても活動
○支援活動の状況は、テレビ、新聞、情報誌等、マスコミにも取り上げられた。

熊本豪雨1年
心も満たした キッチンカー
被災者宅回り食事振る舞う
地域の動力 発信も計画

河北新報（令和３年7月２日）

被災者支援の活動
報告が冊子に

現在の状況及び今後の方向

現在の活動状況（５年後）

○レストランや弁当作りなどの業務から、食体験研修施設として実働。
○人吉球磨10市町村の農泊実践者達とのさらなる連携強化。
○地元のホテル・旅館・アクティビティなど、観光と農泊との連携（インバウンド）。
○高齢化や災害等で消えゆく食文化の聞き取り調査及びレシピおこし。
○食をコンテンツとした地域資源の開発。
○地域おこし協力隊等の次世代へ継承。

地域づくり研修

郷土の食と知恵が詰まったレシピ集を発刊

今後の展開方向

○九州７県でのシン農泊のネットワークに向け、モチベーションを上げて取組んでいきたい。
○現在の活動を推進、発展させつつ、次世代へ繋げる学びの拠点として充実させていきたい。

ディスカバー農山漁村の宝　フォローアップ（優良事例の状況）

しろう農園（株）【沖縄県宮古島市】

選定年：R２年（ビジネス部門受賞）

概　要

○風や干ばつに適応し、害虫にも強く、さとうきびに代わる作物として期待できるアロエを栽培し、アロエ畑にヤギを放牧することで無農薬循環型農業を行うとともに、ヤギとふれあえる観光牧場を開園。
○地元出身の従業員や障害者、高齢者を従業員として雇用するなど、多様性のある地域雇用に貢献。

選定年（R２年）前後の状況

選定時までの活動状況

○日本最大規模でアロエベラを栽培し、生産されたアロエの新商品開発やECサイト販売等で６次産業化を推進。

○ヤギにアロエ畑の除草管理をさせ、糞を堆肥にして畑に戻す無農薬循環型農業を行うとともに、ヤギとふれあえる観光牧園を開園。

観光農園の様子

選定直後の状況

○受注が大幅に増加したため、アロエの栽培方法を工夫し、栽培面積は変えずに年間生産量を約200tから約300tに増加。

○Google閲覧数：令和5年5月 月間5,594（前年比+47%）

○令和5年7月18日時点SNSフォロワー数：合計6,083人（前年同日比+58%）

アロエベラの畑とヤギ

現在の状況及び今後の方向

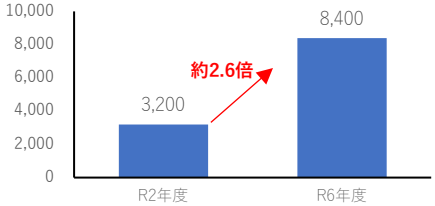
現在の活動状況（５年後）

○知名度の向上により、観光農園の来園者数が2.6倍に増加。

○アロエエキス抽出の技術を活用し、大手化粧品メーカーと連携し、宮古島市の農家が生産しているマデイラカズラ（雲南百薬）からエキスを抽出し、化粧品の原料としている。

○地産地消の観点から、３年前から地元の学校給食へアロエゼリーの提供を行い、現在も継続中。

アロエベラ商品（パッケージ等を刷新）



観光農園の年間来園者数

今後の展開方向

○令和７年度には、OEM商品としてアロエドリンクの新商品を２～３種開発中。

○今後、**就労継続支援B型事業所を立ち上げることを検討中。**